

海外リスクに対応した内部監査の戦略

～日本企業の苦手な海外事業管理に対して内部監査は何をすればよいか

「内部監査実務マスター・コース」〔第5回開催分（全9会合）〕

●日時● 2019年1月17日（木）14:00～17:00

●会場● 東京・麹町 企業研究会『セミナールーム』

●講師● 藤井 範彰氏 公認会計士・公認内部監査人・米国公認会計士（現在 inactive）

20年近く会計監査に従事した大手監査法人では監査アプローチの研修・普及活動や公認会計士協会本部の活動（国際委員会副委員長、会計制度委員会副委員長、監査基準委員会委員他）にも専念。続く10余年は、内部監査、内部統制、リスクマネジメント、不正調査等に特化し、アンダーセン消滅後はPwC（中央青山監査法人）で活動した後、J-SOXの制度化を前に復帰した新日本監査法人（E&Y）で内部統制支援本部統括部長、ビジネスリスクサービス部長、FIDS（不正対策・係争サポート）部長等を歴任し、2012年、シニアパートナーを早期退任して、ボルボ・グループで日本の内部監査統括および同グループ会社UDトラックス㈱の監査役に就任。現在も監査役業務の他に藤井範彰公認会計士事務所として監査や不正関連の講演や研修及び執筆活動を続けている。最近の著書「内部監査のプロが書く監査報告書の指摘事項と改善提案」（同文館出版2016年）で2017年度日本内部監査協会青木賞受賞。他にも著書「内部監査の課題解決法20」税務経理協会2012年、論文「内部監査のアシユアランスの本質論」日本内部監査協会月刊監査研究2018年7月号、「内部監査報告書の本質論と実務対応」同2017年5月号等多数。

●プログラム●

■講義／ 海外リスクに対応した内部監査の戦略<14:00-16:30>

経営の国際化が進みグローバルな視点からのリスク管理やガバナンスが重要となる一方で、日本企業の海外リスク対応の遅れが指摘されています。

海外監査の数は増えても、定型的な業務監査が多く、海外リスクに対応した戦略的な動きはあまり見られません。手薄になりがちな日本企業の海外リスク対応に対して、経営を支える内部監査としては、何をすればよいか、これが今回の課題です。

海外監査実務の詳細は次回のテーマですが、それに先立って、まずは日本企業に一般に見られる海外リスク対応の問題点を検討し、従来型の海外監査のどこに問題があるかを考えます。その上で、何をしに海外に行くかという監査の目的や戦略および方法を業務領域だけでなくガバナンスやリスク管理などの経営監査も広く視野に入れて検討します。

1. 日本企業に見られる海外子会社のガバナンスの課題
2. 日本企業によるこれまでの海外内部監査の特徴と今後の課題
3. ガバナンスとリスク管理を意識した海外監査の切り口と対応方法

■講義をベースとしたディスカッション&総括コメント<16:30-17:00>

～自由討議・意見交換の中から課題解決のノウハウ、ヒントを探り実践に繋げていただきます～

●参加要領●

●受講料：1名（資料代含む）

正会員	31,320円	一般	34,560円
-----	---------	----	---------

〔本体価格 29,000円 本体価格 32,000円〕

* 会員企業一覧は以下の当会のホームページにて、ご確認いただけます。http://www.bri.or.jp

申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あて FAX または E-mailにてお送りください。

折り返し、受講票・会場略図・請求書をお送り致します。

※お申込後のキャンセルは原則としてお受けしかねますので、お申込者がご出席頂けない際は、代理の方のご出席をお願い申し上げます。

●申込先（社）企業研究会

担当)居代 E-mail:ishiro@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麹町 5-7-2

TEL 03-5215-3516/FAX 03-5215-0951

180188	2019 1/17 内部監査実務マスター・コース		
会社名			
住所	〒		
TEL	FAX		
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			